

デジタル田園都市国家構想交付金事業評価シート

		担当課名	建設産業課	事業No.	1
事業名	社会・経済状況の変化に適應する「とくしま農林水産業」生産力強化戦略【地方創生推進タイプ】				
目的	県と農林水産物の6次産業化や輸出振興に取り組む市町村、産学金で設立した「とくしま六次産業化推進連携協議会」を核として、6次化商品の開発、販路開拓を図る。				
実施内容	協議会において次の事業を実施。 1)産地商談会の開催による商談等の機会の創出 2)展示商談会への出展の支援 3)商品開発及び商品改良の支援 →「濱くんちのお野菜」濱貴仁氏へ補助金の支給				
重要業績 評価指標 (KPI)	指 標	目 標		実績	
	新規就農者数（累計）	6人（2015-2019） → 8人（2020-2024）		8人（2020-2023）	
	町内のすくもの製造量	1,400kg（2019） → 3,700kg（2024）		1,960kg（2023）	
	学校給食の 地元産食材使用割合	44.0%（2018） → 50.0%（2023）		32.0%（2023）	
達成度	A：達成 B：概ね達成 ㊟：未達成				

【事業費と財源内訳】

（単位：円）

2023年度	計画額	実績額	交付金充当額	備 考
事業費	800,000	800,000	400,000	事業費の1/2

【2023年度の取組と課題】

藍住町の農家である濱貴仁氏は、販売が難しい規格外となった野菜を活用した冷凍ポタージュを商品化している。とくしま六次産業化推進連携協議会の「異業種等と連携した商品開発支援事業」を活用し、「リッチシリーズ」として既存の「コーンポタージュ」、「バターナッツかぼちゃポタージュ」を改良し、付加価値を向上させ、地域農業の活力の維持・増進、六次産業化の拡大を目指した。販路拡大として、藍住町ふるさと納税返礼品にも登録し、町特産品として県内外へ幅広くPRすることができた。

今後は、事業計画や販売戦略を強化し、安定した収益を確保していけるよう、継続した支援を提供できる体制を整えることが課題となっている。

また、2022年に同制度を活用して試作した冷凍にんじんの学校給食への提供は、2023年度も継続して行った。町産のにんじんが提供できる時期は限られているため、冷凍加工することにより、通年食材として学校給食に提供できた。また、献立表やたべもの新聞でPRすることにより、町産のにんじんの美味しさや魅力を知ってもらい、地産地消や食育への取組みの関心や理解を深めることができた。

【今後の取組】

町内の事業者「異業種等と連携した商品開発支援事業」を活用してもらい、町内の六次産業化の推進を図る。町特産のにんじんだけでなく、にんじんの裏作として栽培している他の野菜等の活用の可能性にも着目し、ストーリー性のある高付加価値商品の創出することで、地域農業の振興や新たな地域の魅力発見を目指す。

学校給食における地元産食材使用割合の増加のため、今後も継続して冷凍にんじんの提供を行う。学校給食担当者と協力し、冷凍にんじんを使用できる献立を増加、また、供給量を増加できるよう生産者や加工業者とも連携し、生産・加工のラインの強化を図る。

商品開発や冷凍にんじんで使用する農作物は、可能な限り規格外品を活用し、フードロス課題にも積極的に取り組んでいく。

※藍住町地方創生推進会議の意見

・KPIの学校給食の地元産食材使用割合が、事業開始年度から減っているが、藍住町だと優良農地も多く、比較的容易に達成できる項目だというイメージがある。どういうところがネックになっているかなど分析を進めていただきたい。